

令和5年度町村長会議 意見交換の概要

1 日 時 令和5年7月31日（月）15時45分～17時15分

2 場 所 神奈川県自治会館 3階会議室

3 出席者

葉山町 長	山梨 崇仁	知 事	黒岩 祐治
寒川町 長	木村 俊雄	副 知 事	武井 政二
大磯町 長	池田 東一郎	副 知 事	小板橋 聡士
二宮町 長	村田 邦子	副 知 事	首藤 健治
中井町 長	戸村 裕司	教 育 長	花田 忠雄
大井町 長	小田 眞一	警 察 本 部 長	直江 利克
松田町 長	本山 博幸	理 事（政策推進担当）	脇 雅 昭
山北町 長	湯川 裕司	政 策 局 長	中谷 知樹
開成町 長	山 神 裕	総 務 局 長	山田 健司
箱根町 長	【 欠 席 】	くらし安全防災局長	佐川 範久
真鶴町 長	松本 一彦	国 際 文 化 観 光 局 長	香川 智佳子
湯河原町 長	富田 幸宏	ス ポ ー ツ 局 長	三枝 茂樹
愛川町 副町長	沼田 力	環 境 農 政 局 長	尾谷 美貴江
清川村 長	岩澤 吉美	福祉子どもみらい局長	川名 勝義
神奈川県町村会事務局長	太田 良勝	健 康 医 療 局 長	足立原 崇
		産 業 労 働 局 長	川 島 剛
		県 土 整 備 局 長	佐藤 亮一
		教 育 局 長	落合 嘉朗
		横須賀三浦地域県政総合センター所長	篠原 仙一
		県央地域県政総合センター所長	黒 岩 信
		湘南地域県政総合センター所長	篠 田 寛
		県西地域県政総合センター所長	荒 井 範 郎

4 議題

- (1) 新たな総合計画の策定について
- (2) 脱炭素社会の実現に向けた取組について
- (3) 子ども・子育て支援の取組について
 - ① 子ども・子育て施策の充実について
 - ② 地域における子どもの居場所づくり
 - ③ 産科・小児医療施設等誘致事業費補助について
- (4) 「A I 技術により消えかけ白線ゼロ」の取組について

5 警察本部からの情報提供

6 意見交換

令和5年度町村長会議（7月31日）意見交換の概要

令和5年7月31日（月）

15時45分～17時15分

神奈川県自治会館3階会議室

【大磯町長】

3点お伺いします。まず、脱炭素社会の実現に向けた取組についてです。神奈川県は箱根駅伝のコースとなっており、白バイが先導します。警視庁は、電動の白バイですが、神奈川県に入ると、県警は普通の白バイで先導するので、私が県議会議員の時に、県警も、電動の白バイにすればテレビのアナウンサーもPRしてくれるし、宣伝効果絶大ではないのかと担当と意見交換をしたことがあります。その時は予算がないという話だったので、現状について検討状況を伺いたいと思います。

2つ目は、子ども食堂についてです。子ども食堂に対する食品衛生法関係の規制について、県域の保健所と、横浜市及び川崎市の保健所を比較すると、県域の方が規制が厳しいという傾向があったと思いますが、是正をいただいているのか伺います。私が子ども食堂を作る際に関わったときは、県域は平塚の保健所が厳しいと聞きましたが、現状を伺いたいと思います。

3つ目は産科・小児医療施設等誘致事業費補助についてです。大磯町にある病院では、現在、産科が休止していますが、近々建て替える話もあり、町からは、産科を復活して欲しいとお願いしています。前にあった産科を復活する場合でもこの補助制度は使えるのか伺いたいと思います。以上3つ、どうぞよろしくお願いします。

【黒岩知事】

箱根駅伝の電動の白バイについて、警察本部長お願いします。

【警察本部長】

警視庁が持っている電動の白バイはかなり高額で、さらにあまり二輪としては普及していません。私も警視庁で交通部長をしておりましたが、箱根駅伝の引継ぎでも、音がしないため非常に難しいという話もあります。警視庁でもなかなか台数が増えていません。その辺はこれから白バイの性能、あるいは予算を踏まえて検討していきたいと思います。

【黒岩知事】

子ども食堂について、福祉子どもみらい局長お願いします。

【福祉子どもみらい局長】

先ほど御説明したとおり、県では子ども食堂をしっかりと地域の居場所として、拡大していきたいと考えています。町長にも進めていただくというようにお話をいただき、ありがとうございます。

食事を提供する上での規制が地域によって差があるというお話については、しっかり状況を調べたいと思います。

【健康医療局長】

子ども食堂の食品営業許可あるいは管理については健康医療局が所管をしております。これに限らず、保健所のエリアごとに若干解釈が違ったりとか、厳しかったりするのは聞いております。子ども食堂に限りませんが、詳細については今、資料を持ち合わせておりませんが、お話があったことを持ち帰って、偏りがないように努めてまいりたいと思います。

【黒岩知事】

産科・小児医療施設等誘致事業費補助の件、引き続きお願いします。

【健康医療局長】

産科・小児医療施設等誘致事業費補助について、新設か建て替えかどうかは別として、休止している産科を復活した場合もゼロから1でするので、概念的には対象になり得ると思います。ただ、どこの地域から医師が来るかなどケースバイケースですので、是非、柔軟な段階で御相談いただければと思います。

【黒岩知事】

はい、他にいかがでしょうか。開成町長お願いします。

【開成町長】

まず、開成町でも防犯カメラの増強について検討を進めており、防犯カメラの今後の設置につきまして県のスタンスを伺えればと思います。

次に、この4月1日から自転車に乗る際のヘルメット着用が努力義務となりまして、遅ればせながら開成町でも住民への補助を行う準備を進めております。今のところ努力義務ではありますが、県としてのスタンスを伺えればと思っております。

最後に脱炭素社会の実現に向けた取組についてです。国の削減目標は50%ということですが、開成町においても個人レベル、また公共施設レベルでの努力はしていますが、結局のところ企業の努力次第のようないところがあります。CO₂排出の70%位が企業ということで、町としても努力はしておりますし、中小企業向け補助金も国の補助金を活用

し、さらに町単費で利子補給を行う形で進めておりますが、正直、限界も感じております。県として企業向けの様々な補助制度は用意いただいておりますが、結局企業の努力次第というところに対するアプローチ、今後の方策等、もしございましたら伺えればと思います。

【黒岩知事】

防犯カメラの増強について、くらし安全防災局長をお願いします。

【くらし安全防災局長】

防犯カメラについては、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えて、平成 28 年度から徹底的な補助をスタートしてきましたが、地域の安全安心のインフラとして、犯罪抑止、検挙など色々な観点から非常に有効です。また、市町村から補助の継続を要請いただき、これまで時限の延長で継続してきましたが、今年度から市町村地域防災力強化事業費補助金のメニューに組み込み、当面、時限はない形で、事業費は平成 4 年度 1,000 万円だったものを 3 倍の 3,000 万円に増額し予算措置をしています。さらに、補助対象も拡大し、市町村が直接設置するようなものも対象としておりかなり拡充しております。今年度は初年度のため、少し周知が及んでいないところがあるかもしれませんが、是非お問合せいただき、積極的に御活用いただければと思っております。以上です。

【黒岩知事】

引き続き、自転車のヘルメット着用についてをお願いします。

【くらし安全防災局長】

自転車のヘルメット着用については、道路交通法が改正され、努力義務ではありますが義務になりましたので、県警と連携してかなり啓発をしてまいりました。義務になったことの周知はされてきたと思っております。ただ、今、数字はすぐに出ませんが、まだまだヘルメットを被らない方はいらっしゃる。理由としては、髪型が崩れる、出先でヘルメットの置き場がないなど、色々な要因でヘルメットを被ることに繋がっていないと思っております。また、聞くところによると、物が不足しているようで、ヘルメットを買いに行っても売っていないという状況だと聞いておりますので、ヘルメットを被ることの有効性、効果があるかというところに力点を置きながら、県警と連携しながらしっかりと周知していきたいと思っております。物不足という状況もあるようですから、それを見据えながらしていきたいと思っております。引き続き、町村と連携しながら、普及啓発をしていく必要があると思っておりますので、よろしくをお願いします。

【黒岩知事】

それでは脱炭素社会の実現に向けて、企業の努力次第といったところについてどうなのか、環境農政局長お願いします。

【環境農政局長】

脱炭素社会に向けた取組が、喫緊の課題であるということで、各町村にも様々な取組をしていただいていると思います。また、県としても様々な取組をしていますが、誰かがこれをすれば必ず解決できる、というようなことが当然、見えているわけではありません。だからこそオールジャパン、オール神奈川での取組が重要です。また、町だけの取組では限界を感じるというお話もありましたが、やはり今後の技術開発も必要になってきます。そうした中で、企業の取組が重要ではないかという御指摘をいただきました。例えば大企業では、新聞報道等にもあるとおり、様々な取組をしている一方で、県内の大多数を占める中小企業からは、脱炭素の取組の重要性は認識しつつも、具体的に何かからどうやって取り組めばいいか分からないといった声もいただいています。もちろん様々な補助、支援のメニューも県で用意していますが、そういった声にお応えするために、ワンストップ相談窓口を作って、皆様の御相談に応じるといったような取組を始めておりますので、そうしたものもしっかり周知しながら取組を進めていきたいと思っております。

【黒岩知事】

この間も企業の皆さんに向けて私自身がこのテーマについて講演する機会があり、企業の経営者、特に中小企業の皆さんから、何をすればいいか分からないという声がすごく多く聞かれました。私からはワンストップの相談窓口を紹介したと同時に、サプライチェーン全体できちんと脱炭素に取り組んでいるかということで企業を選ぶという世の中の流れもあることから、脱炭素に取り組んでいないと発注がなくなる可能性もあるので、それぞれ自分事化することが大事であるという講演をしました。よろしいでしょうか。

【開成町長】

はい。

【黒岩知事】

ありがとうございます。それではいかがでしょうか。中井町長お願いします。

【中井町長】

白線の補修すごく楽しみにしております。消えかけている白線を補修することは、安

全にも繋がりますし、これからのA I 技術、あるいは自動運転等にも資すると思います。また、私としては県道沿いの草刈りもお願いしたいと思います。特に通学路にかかる部分は、今ちょうど剪定をしていただきましたが、また新学期には伸びてしまうところもあります。町民の皆様からの声も多いので、お願いをしたいと思います。

次に、町村は特に人材不足が続いています。保健師、技術職の派遣を県にお願いできる順番がようやく来年度来るわけですが、慢性的な人材不足をどのように解決していけばいいか、町としても就職、あるいは採用の段階から可能な限り努力をさせていただいておりますので、D X 人材も要望したところですが、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

最後に、中井町には中井やまゆり園があります。先だって知事にも来ていただき本当にありがとうございました。私も福祉施設で働いていたことがありますので、利用者の家族を始め、職員の気持ち、在り方というのもよく分かるところです。福祉においては、理念としての地域という言葉があります。同時に中井町は、具体的な場としての地域です。今後の中井やまゆり園の色々な取組を支援していきたいと思ひますし、また同時に、様々な思ひを町民の方も持っているので、コミュニケーションをとりながら具体的な地域としての中井町をしっかりとやっていきたいと思ひておりますのでよろしくお願ひいたします。質問にもなりませんけれど、以上でございます。

【黒岩知事】

はい、それでは県道沿いの草刈りについて県土整備局長お願ひします。

【県土整備局長】

県管理道路沿いについては、基本的には年2～3回、地元の団体に草刈りを依頼しています。場所によってはすぐに生えてしまうところもありますので、是非ともそういった声を直接伝えていただければ、その都度判断して草刈りを行うようにしますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

【黒岩知事】

はい、それでは人材不足について総務局長お願ひします。

【総務局長】

人材の育成派遣の関係について、県では保健師、土木職といった非常に採用が難しいと言われる職種を一括して採用して派遣させていただき取組をいただいております。

実際は、県でも保健師、土木職の採用が厳しくなっております。保健師については市町村と合同の説明会をしております。神奈川県に就職をすると、県の仕事も市町村の仕事も経験できるなど、職場の魅力を市町村と一緒にPRしながら、保健師について

は修学資金貸付なども始めようと思っておりますので、こういったことを通じて、取り組んでいきたいと思っております。

それからDX人材については非常に悩ましいと思っております。県で採用しようと思っても、民間と給与レベルが圧倒的に違います。ですから、DXに精通した方を新規採用で採ろうと思ってもなかなか難しいので、県の中でDXの実践の場というのを与えて人材をどんどん育成しないといけないと思っておりますが、ある程度習熟した職員が、民間で力を試したいとって途中で退職するという事例が増えています。ですから、退職する数以上のDX人材を育成しないと、県としても立ち行かないと考えているところでございまして、これは現在、そして将来に向けた課題として認識しているところでございます。

【武井副知事】

DX人材についてですが、各地域県政総合センター単位で、副市町村長と副知事の懇親会を年2回やっており、今年度は懇親会の前にDX戦略をテーマに勉強会を行いました。その中で、DX人材をいかに確保し、育成していくかについて、県の考えを御説明しつつ、市町村の御要望を懇親会の場でお伺いするというのも今年度から始めています。非常に大きな課題だと県も認識しているので、御要望をお寄せいただければと考えています。

【政策局長】

政策局から1点補足します。専門職員派遣制度は市町村課が窓口になっています。人口減少社会の中で、非常に重要な広域自治体としての役割だと思っておりますので、町村から要望いただければ県で対応していきたいと思っております。

【黒岩知事】

中井やまゆり園の件について福祉子どもみらい局長お願いします。

【福祉子どもみらい局長】

中井やまゆり園での、虐待を含む数々の不適切な支援につきまして、皆様にも御心配、御不安、またお怒りも含めて、迷惑をお掛けしていると考えております。本当に申し訳ございません。また利用者の皆様、御家族、地域の皆様も色々な不安を抱えていたかと思っております。皆様にも御迷惑をおかけしたと思っております。本庁、中井やまゆり園、一体となって状況を確認しながら、適正な支援をしていかなければならなかったことについて、本庁の責任も大変重大だと思っております。その中で、職員のストレスについてももしっかり対応していかなければならないと思っております。外部からもアドバイザーとして入っていただき、御協力いただきながら、支援の改革を進めているところでございますが、その中で大事なものは、地域の皆様との交流かと思っております。中井町の農園の

方に御協力いただきながら、今、プロジェクトを進めており、園の利用者が職員とともに農園に伺って農福連携の形で一緒に作業をさせていただき、先日もみかん園で作業させていただきながら、地域の皆様との交流で色々な経験をすることで、状態も改善していくことが効果として表れており、今まで園の中でしか生活していなかった利用者が明るくしっかりと作業を行っているという姿を私も拝見しております。今後そのような取組をどんどん広げて、地域の方と連携しながら、皆さんに改善していくところは是非、御覧いただいて、色々な御意見、御指摘をいただければと思っております。引き続き御協力いただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

【黒岩知事】

中井やまゆり園には、私も先日行かせていただきました。1年半前にも視察に行きましたが、その時は虐待についてあまり明らかになっていなかったときです。その時、施設の職員が悪びれる様子もなく説明していたことをよく覚えています。24時間施錠された部屋では、女性が硬直しており、部屋の中には何にもなく、動物園以下という感じでした。女性を閉じ込めているということについて、この女性は外に出すと危険で、自分を傷つけるかもしれないからやらざるを得ないという話でした。ほかにも、監視カメラでずっと監視されている人について、この人は食事を終えたらすぐに食器を片付けないと暴れるので、食事が終わった瞬間に職員が入るようにしているという説明でした。それが良い支援だと思ってやっているという状況でした。でも、このような支援だと永遠に園から出ることができない。そこで県は当事者目線の障がい福祉をやっていかなければいけないということで神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例を作り、この4月から施行となりました。その後、この県直営の施設で目を覆うような、耳を疑うような虐待事例が次々と判明し、それを全面的に改善していくため、外部の人間が入って、徹底的に改善しているところです。この間視察に行った際、明らかに変わってきているということが実感できました。部屋に閉じ込められていた女性が今や外へ出て、椅子に腰かけて非常に穏やかな表情をしています。私の謝罪をしっかりと受け入れてくれていました。ずっと監視されていた人も外に出ている。今まで基本的に園から外に出なかったのですが、とにかく町に出る、地域移行という大きな流れを進めています。地域移行とは何かというと、今、農福連携という話がありましたが、農業の皆さんと一緒に畑作業をすることによって地域と繋がる。例えば、電車に乗って買い物に行ったときの簡単な会話など、ただ地域に出ていけばいいわけではなく、やはり人との繋がりがあってこそ地域の生活になっていくということがあります。施設だけを改革しても済まないわけで、町全体の改革や皆さんの意識改革を伴わないといけませんので、町の皆さんの御協力、御理解というのは、ものすごく重大だと感じておりますので、町としても進めていただきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。よろしいですか。

はい、清川村長どうぞお願ひします。

【清川村長】

清川村でも来年度からの次期総合計画の策定に向けた作業を進めています。県の総合計画の内容をしっかりと確認しながら、今後、3回ほど意見照会があるということなので、反映をしていければと思っています。

こういった中で、5つの地域政策圏というものがあります。1点気になるのが県央と湘南についてです。県央地域には私たちの村も含めて、湘南地域の伊勢原市、秦野市も含めた広域行政連絡会というものがあります。秦野市、伊勢原市、厚木市、愛川町、清川村で構成され長く歴史のある協議会ですが、丹沢大山のやまなみという名称の使い分けについてです。私たち清川村が主張している、丹沢山の山頂は清川村というお話をいつもしていますが、清川村の丹沢があり、秦野市は表丹沢、厚木市は東丹沢と呼んでいます。どちらが、表も裏でも東でも西でもいいですが、こういった名称を両方で使っているのかどうか、我々が提案した時にそういう思いがあるので、丹沢大山という名称を使わないにしても、これまでの歴史、広域行政連絡会の中で、県央やまなみについて、県央は御承知のようにほかに、海老名市、座間市、大和市、綾瀬市があり、大きく言えば相模原市も、県央地域に入っているのです。県央の中でのやまなみというような位置付けで、広域行政連絡会をやっていますので、そういった構造的な言葉の表し方、表現の仕方というのは、後程また調整をさせていただければと思います、意見として聞いていただければと思います。お願いします。

【黒岩知事】

政策局長お願いします。

【政策局長】

県央地域というのはすでに各自治体で連携して取り組んでいる事例が非常に多く、その中で色々な名称をそれぞれ使われているということですので、できる限り県がそういった場に入って、その関係の近隣の自治体を含めて、問題がないか確認する調整役になっていきたいと思っています。もし気になるようなことがありましたら、県の立場で、各自治体に伺って、問題がないか確認していきたいと思っていますので、どうぞそういった御要望を聞かせていただければと思います。

【黒岩知事】

よろしいですか。はい、二宮町長お願いします。

【二宮町長】

今回、子ども・子育て支援の充実ということで、結婚、妊娠、出産、少子化にも通じ

ることだと思えますが、育児、子育て、温かいコミュニティということで、切れ目のない支援を打ち出していただいて、町でもしっかりと活用していきたいと思えますが、その子育てのまたもう一つ次に、学校教育の現場があります。今、教員の働き方改革など色々問題も言われている中で、学校現場では多様な問題があり、不登校の子どもも増えていますし、ICT教育ということで、新しい技術を教員がしっかりと学んで、ツールをしっかりと日々の授業の中で活用してもらいたいと私も思っています。それぞれの自治体での研修だけではなく、県として教員の力量アップ、様々なものを用意し、それをうまく活用してもらい、新しい課題もありますが、昔よりも1クラスの子どもの人数も少なくなっているので、その中で今の教員がどうやって授業をしっかりと充実させていくのか、新しい力量アップの研修等も県で取り組んでいただけないかと思えます。よろしくお願ひします。

【黒岩知事】

はい、それでは教育長。

【教育長】

町長のおっしゃるとおり、学校現場は今、色々な課題を受け持っていて、教員が大変な状況です。県で研修等を行うということですが、ICTにしても、不登校対策にしても、市町村と一緒にあって対応を考えているところです。それぞれ指針のようなものであったり、不登校であればフリースクール、そういったところの連携も、県が中心になって、地域ごとに検討会を設けるといった事例もあります。ただ、教員が家庭や地域の課題をすべて解決していかなくてはいけない状況は、家庭も地域も教育力が昔と比べて随分落ちているということが原因だと思えます。今日、若手教員のプロジェクトチームを作って、今のままだと教員自身が潰れてしまうということで、働き方改革に向けた検討を始めました。これから教員の皆さんが抱える仕事をどうやって少なくしていくのか、どうやって子どもたちと向き合う時間を作っていくのか、そういったことにも切り込んでいきたいと思えます。

町長からお話があった35人学級も徐々に進んでいますし、少人数学級についても県としては毎年国に要望しておりますが、その分教員がどんどん必要になってくる。ただ、教員のなり手も少ないということで、構造的に教育委員会が抱える課題、市町村、県も大変なことではありますけれども、引き続き市町村と一緒にあって、できる限りの対応をしてまいりたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

【黒岩知事】

よろしいですか。他にいかがでしょうか。では松田町長どうぞ。

【松田町長】

子ども・子育て施策の関係で、子ども食堂の紹介ということで、今やっている事業を支援していただくのではなく、まず子ども食堂に関する情報発信の強化ということですが、ゆとり教育が2002年から始まり、約21年経っている中で、当時の私の記憶だと、土日に家庭に帰って親と一緒に過ごす時間がない、というようなフレーズで始まっているところからすると、子ども食堂が必要になっているこの社会はいささかどうかと思うところもあります。その中で子ども食堂については、サードプレイスと言われる第3の居場所づくりとして我々もやっているのですが、必要だというのは十分に認識していますが、そもそも、子ども食堂に頼らないで済むような社会を作っていくのが我々の仕事だと思っています。

子ども食堂の支援の関係で、1つ提案です。居場所づくりとして、松田町で少し取り組んでいるのが、運動やスポーツをするような団体に対する支援です。栄養をしっかりと摂るための子ども食堂もそうですが、今、子どもたちは遊び場や運動、スポーツをする団体に、お金を出して行っている状態なので、なるべく経済的な負担がない形で親が帰ってくるまでの間の見守りをこれから地域のスポーツクラブと一緒にやっていくのですけれども、できたらそういったところの運営上の経済支援を本当はしてもらいたいのですが、そこはさておき、運動、スポーツの団体の活動の情報発信をしていただくと今後の居場所づくりの1つの方策としていいと思ったので、御提案を兼ねて今後検討していただければと思います。以上です。

【黒岩知事】

はい、福祉子どもみらい局長お願いします。

【福祉子どもみらい局長】

まず子ども食堂への支援ですが、今回6月補正予算では情報発信ということで、どこにそういう居場所があるのかを知るという取組をしております。その前に、ここ最近、物価高騰などの非常に運営も厳しい状況もあるので、そういうところへの若干の支援を行ったり、支援団体と連携して支援に繋がるような、子ども食堂と支援団体をつなぐようなネットワークづくり、こういう取組をやってきた中で、今回、情報発信をして、さらに居場所を知っていただく取組を予算計上させていただきました。今のお話は、本来は、もう少し子育てをしっかりとできるような環境づくりが必要というお話かと思うのですが、なかなか御家庭での子育てが非常に厳しい中で、地域で、みんなが子育てを支援していこうという場になっていくと思っています。また、その場は子どもだけでなく、高齢者も障がい者も一緒に利用して地域で、みんながそこに行くことができると安心できるような居場所づくりができないかということで、今回は紹介させていただきました。今お話があったとおり、食事だけでなく、先生に勉強、宿題を教えてもらえるような、地域の

ことを知るような活動、色々な方が参加することによって、取組が広がってくると思います。御意見をいただいた運動とかスポーツとか、そこに行きたいと思うような居場所づくりを進めたいと思いますので、御意見につきましては参考とさせていただきます。今後も県の職員が回らせていただきますので是非、御意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

【黒岩知事】

よろしいですか。他いかがでしょうか。葉山町長お願いします。

【葉山町長】

初めに政策局長に伺いますが、総合計画に不確実性の高まりという言葉がありますが、この言葉を使うのは初めてですか。

【政策局長】

今の総合計画の中にはこの言葉は入っていないと記憶しています。

【葉山町長】

わかりました。松田町長の話に通じると思いますが、多様化とか不確実性の言葉が今すごく重みを持っている社会に変遷していると感じていて、一方でこれだけ日中も気温が高くて、観測史上初が日々続いている、教育現場に行けば先生もいない、子どもはグレイゾーンが増えている、親は子どもを学校に車で送り迎えするのが当たり前の時代になっている。我々の当たり前がどんどん変わっているのをすごく肌で感じています。海の家も報道にあるとおり、本当に人出も減っていますし、海水浴の文化もどうなんだろうと感じているところです。この変化に対して私たちがどう向き合っていくのかというのは、ここに書いてあるとおり、気候変動に対する対策として脱炭素とか、色々な言葉がありますけれども、要は、もうやらなければいけないという時代で、私たちが右だ左だと政策論争している場合ではないと皆が思っていると思うので、是非より強いメッセージを発信して欲しいと思います。

子ども・子育て施策も言ってしまうと少子化対策で、子どもを産んで欲しいということですね。色々な施策について、子どもを産んだ方たち、産む直前の方々に対するメッセージは感じておりますが、例えば今の若い世代、学生とかこれから結婚する方々が、どれだけメッセージを認知しているのかというのはすごく不安を感じる場所があります。学校現場というわけにはいかないと思いますが、社会的に今こういう構造で我々は危機を迎えているということをして是非、発信を強めてもらいたいと感じます。子どもたちをこれから産んで育てていくことに、将来性や期待感をしっかり持ってもらいたいと思うのですが、これまで知事が未病にずっと取り組んでいて、今改めてこの人類の危機

に向き合わないといけない、1945年にWHOが発信しているウェルビーイングという言葉が最近やっと見直されてきた気がします、我々が健康に生きていられる、ハッピーであるということ発信することで、子どもを育てていこうという気持ちのひとつになればと思うと、やはり健康施策については引き続き力を入れて欲しいと思います。私たちの健康と、これから子どもを育てていく人たちに対する安心感の発信と、私が生きる上でのベースである脱炭素というこの3点は欠かせないと思っています。

葉山町では8月か9月に、昨年のME-BYOサミットでお会いした鄭先生たちと、東京大学と県立保健福祉大学と協定を結ぶことで進めており、発信できる予定なので、開いた場を多くの方々に繋がって行く場として活用して欲しいと思うので、是非、未病関係は引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから脱炭素社会の実現に向けた取組で、小規模ですが葉山町では3月に、はやまエシカルアワードという名前で、町の中のSDGs関連の賛同事業者を集めて表彰を行いました。そこで各企業がプレゼンをしたのですが、意外なことに参加した方々が、他の企業の動向が知ることができてとてもよかった、自分がやっていることが改めて見直されたし安心した、という言葉がすごく多かったです。今回、率先実行とありますが、県の取組や我々自治体の取組を横展開して、できることを当然やるべきだという視点で進めていくことが我々ができることではないか、民間事業者がやっていることを民間事業者同士で、県が作ったプラットフォームもありますから、その中で、経済振興でなく脱炭素の取組の横連携という発信で、県全体のベースを上げていくことはできるのではないかと思ひました。是非、3本柱で頑張っていたいただきたいと思ひます。

【黒岩知事】

幅広い話でしたが、まずは政策局長。

【政策局長】

御意見ありがとうございます。葉山町長がおっしゃったとおり、不確実性というのは神奈川県、他県に限らず高まっている状況があります。社会環境の変化は昨年の点検作業の中で確認しておりまして、先ほどおっしゃられた少子化対策含めて、課題が鮮明化していますから、それに応える政策を県としてしっかりと盛り込んでいけるような総合計画にしていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。

【黒岩知事】

健康医療局長お願ひします。

【健康医療局長】

私、実は健康医療局長兼未病担当局長であり、町長がおっしゃった健康づくり、未病

施策、しっかりと進めていかなければいけないと考えております。健康づくりの施策、もちろん各町村も取り組まれていると思います。そうした中で、理想は町長もおっしゃいましたが、やはり自らがよく生きる、ウェルビーイングになっていく、健康づくりをやってくださいではなくて、行動が自然と変わっていく社会を作っていくことが大変重要ですので、市町村の健康づくり施策と連動して、市民、町民、県民の行動が自然と変わっていく、こういった取組にはどういったことがあるのか、これをしっかりとやっていきたいと考えています。

それから出生、出産の関係です。不妊治療を含めて出産を考えている直前の人はもちろんですが、その手前の意識づくりが非常に大事だと思っています。もちろん教育現場もございますけれども、産婦人科学会等々でプレコンセプションケアという言葉があります。まだあまり知られていませんけれども、もっと早い段階から自分事で、例えば卵子がだんだん劣化していくとか、出産の適正年齢があるとか、自分の人生を早くから考える、中学生、高校生はもとより、20歳くらい、結婚は先だけどそろそろ考えるときにしっかりと自分事として考える、といった動きがございますので、こういった取組をどうしていくか、この辺りもしっかりと考えて施策に反映してまいりたいと思います。

【黒岩知事】

はい、環境農政局長お願いします。

【環境農政局長】

脱炭素社会の実現に向けた県の取組につきましては、本日の資料に別でつけてありますが、こうした県の取組を周知する、また、県の率先実行の取組について、どういったことをやっていて効果をどれくらい見込んでいるのかについても、是非、情報共有しながら、共に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

【黒岩知事】

本日はありがとうございました。